

横浜国際園芸博覧会

2027年3月

「米軍施設跡地」

旧上瀬谷通信施設で開催します。

世界の花、
横浜で咲かせよう！



国際園芸博覧会の事業コンセプトと開催場所

国際園芸博覧会は、国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献を目的に開催されています。

横浜には、花と緑やまちを支える市民力、企業・団体の活動があり、2017年の「全国都市緑化よこはまフェア」には600万人もの人々が訪れました。また、国際色豊かな開港都市として、世界中の方々をおもてなしするのにふさわしい舞台でもあります。

旧上瀬谷通信施設において、花と緑をシンボルに、生命感と未来の種にあふれた国際園芸博覧会(A1)が開催されることで、基地跡地のまちづくりが進み、次世代に向けた持続的な環境創出や新たな経済の活性化に貢献します。さらに、世界の子どもたちに感動を与え、横浜から明日に向けた創造的な提案や友好と平和のメッセージの発信にもつながります。

国際園芸博覧会(A1)について

A1(最高クラス)の国際園芸博覧会は、国際園芸家協会(AIPH)及び博覧会国際事務局(BIE)の認定を受けて開催される国際的な博覧会です。日本では1990年に「国際花と緑の博覧会(花の万博)」が、アジアで初めてのA1の国際園芸博覧会として大阪で開催されました。横浜市も花の万博と同じA1の国際園芸博覧会を開催します。



1990年 花の万博(大阪)

提供:(公財)国際花と緑の博覧会記念協会

テーマ・事業コンセプト

※「旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会基本構想案」(2018年3月横浜市)に基づく

テーマは、「幸せを創る明日の風景」。

花や緑、農や食、大地や交流がつながり、感動を呼び、幸せを深め、明日を予感させる多彩な風景・シーンを創り出します。

「先進性と普遍性を体感」、「多様性と寛容性を共感」、「シェア(共有・分配)とリンク(交流・参加)を実感」の3つの視点から、新たな感性や価値を創造します。



先進性 普遍性 多様性 寛容性 シェア リンク

開催場所: 旧上瀬谷通信施設

横浜市の北西部(旭区・瀬谷区)にある面積約242haの平坦な土地です。長年米軍に提供していましたが、2015年6月に返還されました。農業振興と都市的土地利用による新しいまちづくりを進めており、郊外部の活性化拠点として大きなポテンシャルを有しています。

[開催期間] 2027年3月～9月
[会場規模] 主会場 80～100ha
[来場者数] 1,500万人以上(見込み)



お問い合わせ

横浜 国際園芸博覧会